

見学会を通じた建設業界のイメージアップ

工 事 名 : 妙高大橋架替上部工事
 工事場所 : 新潟県妙高市二俣地先～坂口新田地先
 会 社 名 : J F Eエンジニアリング株式会社
 発 表 者 : 海野 太貴

1. はじめに

我が国は、少子高齢化時代を迎え、社会全体において働き手の数が減少しつつある。その中でも建設業はいわゆる3K（きつい、汚い、危険）と言われるマイナスイメージにより、業界の人員不足および後継者不足が課題となっている。（図-1）

今回、当現場が行政および建設業協会の主催により開かれる地元高校生の見学会の対象となった。見学会を通じて、建設現場内の雰囲気や、やりがい等を感じて頂くため、および、建設業界のイメージアップを図るために行った事例を報告する。

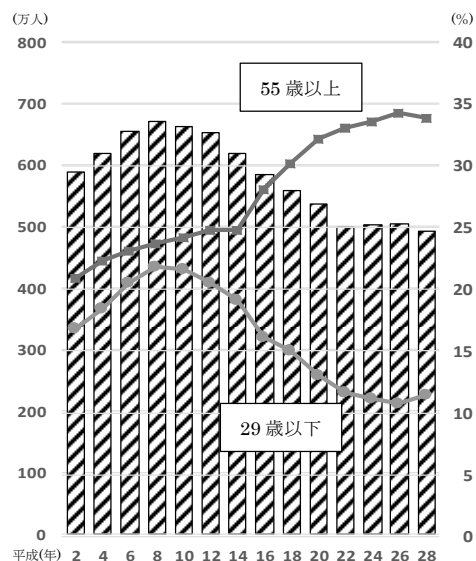


図-1 建設就業者の推移

（出典：総務省「労働力調査」）

2. 工事概要

本工事は、国道18号線【妙高大橋】の架け替え事業の内、橋梁の上部工等を施工する工事である。架け替える橋梁は、桁高7～12.5m、支間長94.8+105.8mと比較的大規模な鋼製のトラス橋梁である。当該地域は積雪が多く降雪の影響を受けない様に、4月～11月までに架設を終えるため、架設工法はクローラークレーン・ベント工法とトラベラークレーンによる張り出し架設工法を採用している。（図-2）

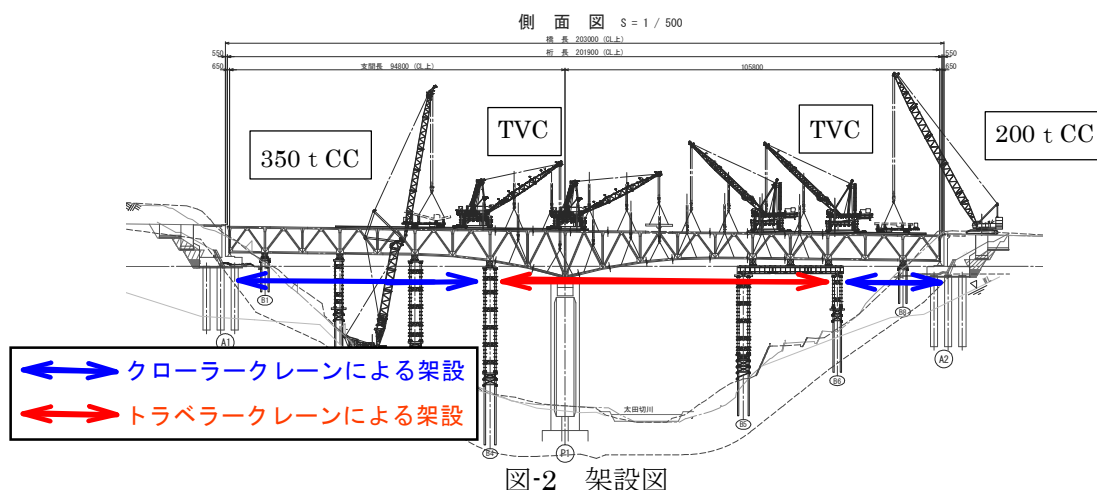


図-2 架設図

3. 工夫した点

地元高校生への説明に際しては、実際の現場を肌で感じてもらえるように、かつ、興味を持ってもらえるように以下の対応を実施した。尚、見学会参加者の人数が40名程度と多かったため、2班に分けて対応した。

1. 工事説明

馴染みの少ないトラス橋がどのようにして施工されているかを、工場制作（材料、加工、製作、仮組、輸送）、現場施工（ベント基礎、ベント設備、支承、桁架設）の実際の写真を用いて説明した。また、この新橋を架け替える理由については現橋の状況を踏まえ監督官に説明して頂いた。

2. 体験学習

主に以下の3つの体験を実施した。①実際の架設に使用する橋桁を利用して、高力ボルトの締付け体験および孔合わせ（油圧ピンの打ち込み）体験（写真-1）②現場塗装の上塗り体験と塗膜厚測定体験（写真-2）（上記二つは橋梁特殊工、橋梁塗装工による実務指導）③熱中症対策グッズの使用体験（写真-3）



4. 結果・まとめ

工事説明においては、恥ずかしさもあったかとは思いますが、積極的に質問を促した結果、高校生らしい質問をいくつか引き出すことができた。週休二日の現状やどのような作業に危険を感じるか、単身赴任の事等が気になる様子であった。体験学習において、実物の橋桁を使用したボルト締付け体験は、大変好評であった。また、1mm以下の塗膜厚を測定する塗膜厚測定器に関心が高かった。熱中対策においても現場で行っているさまざまなグッズの体験をし、特に空調服の試着では、体感の違いに感動しているようであった。

いわゆる3Kの職場のイメージを払拭するには、今後も業界を上げて様々な活動が必要ではあるが、その一翼を今回の見学会を通じて担えたと感じている。今後、少しでも建設業界に興味を持ち、入職する学生がいれば幸いである。また、見学会を通じて高校生の率直な意見や感想を聞くことができ、自分達の仕事に改めて誇りを感じ、我々にも良い刺激、貴重な体験となった。今回見学していただいた上越総合技術高校、高田農業高校の皆さん以外にも、本工事では、見学会や、視察の対応を十数回行い、様々な方達に興味を持っていただいたと思っている。今後も建設業界の発展に少しでも寄与できるように努めていきたい。

最後になりましたが、見学会を企画運営してくださった発注者および建設業協会の方々、異なった視点からのアイデアと当日の援助をしてくださった協力会社の方々への感謝の意をここで述べさせていただきます。